

令和 8 年度

運営に関する計画



大阪市立大開小学校

令和 8 年 4 月

大阪市立大開小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、「豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、全ての教職員が児童一人ひとりの個性に寄り添った児童理解と、確かな学力を育む学習指導の充実に努めている。全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査などの各調査の結果をもとに、本校の児童の現状と課題を明らかにする。

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】

本校では、「学校生活の充足感」と「自己肯定感」を測る指標として、「学校に行くのは楽しいと思うか」「自分にはよいところがあると思うか」の 2 項目において、肯定的回答率の向上を重点目標に掲げている。「学校生活の楽しさ」については、学習指導と生活指導を教育活動の両輪として展開することで、中期目標に準ずる成果を得ている。一方で、「自己肯定感」については、依然として肯定的回答率が低い傾向にあることが課題である。今後は、子ども一人ひとりのよさを認め、励ます「承認と称賛」の指導について、全教育活動を通じて徹底するとともに、家庭との連携を一層密にすることで、学校・家庭が一体となって児童の自己肯定感を育む取り組みを推進していく。

【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「友達との対話を通じた思考の深化」および「運動やスポーツへの関心」を目標に設定した。体力面では、本校独自の「運動だいすき週間」等の継続的な取り組みにより、運動好きの児童の割合は中期目標と同水準を維持している。学習面における「対話による気付き」には依然として課題が見られるため、発達段階に応じた「ペア学習」や「グループ学習」を戦略的に授業へ組み込んでいる。特に今年度は、学習の終末における「振り返り」の質を向上させる指導に重点を置く。他者の多様な考えに触れることで、自らの思考を再構築し、新たな気付きを得られるような授業改善を組織的に展開していく。

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】

本校の端末活用率は 84.4%と高く、日常的な活用は定着している。しかし、活用内容を精査すると「情報の消費」に留まっており、クラウド環境の特性を活かした「収集・整理・表現」といった創造的な活用には至っていない。今後は、クラウド環境を最大限に活用し、共有ドキュメントによるリアルタイムでの共同編集や、プレゼンテーションソフトを用いた思考の可視化など、アウトプットを重視した「個別最適な学びと協働的な学び」を一体的に推進する。

教職員の働き方改革については、校務分掌の適正化や行事の PDCA サイクルによる精選を図り、教職員がいきいきと児童に向き合える時間を確保することで、資質・能力の育成に資する教育体制を構築する。

児童の読書活動の推進については、休み時間の図書室開放や学校司書の配置、および「読書貯金箱」による読書記録のデータ化を通じ、本に親しむ習慣を醸成する。本校の特長である「読書習慣の定着」の高さを維持し、生涯にわたって学び続ける基盤を育んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。

◆ 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。

◆ 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 80 時間以上実施する教員をゼロにする。

◆ 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 18%以下にする。

◆ 基本的な方向 8 生涯学習の支援

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

◆ 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74.3%以上にする。

◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.2%以上にする。

◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 89.5%以上にする。

◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。

◆ 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 80 時間以上実施する教員をゼロにする。

◆ 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 18%以下にする。

◆ 基本的な方向 8 生涯学習の支援

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式例 2)

大阪市立大開小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の充実】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 ◆ 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74.3%以上にする。 ◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の充実】 ○学期に 1 回以上、道徳や学級活動を通して「いじめ」について考える授業を行う。 また、毎月初めの朝学習の時間に「いじめ」について考える機会を設定する。 ○児童集会や学校行事などのたてわり班活動を通して、自己有用感を高められるような取組を行う。 指標 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ○ハッピーカードを学期に 1 回行う。 ○小さな「できた」ビンゴ週間を実施予定。 ○学校だよりなどでの啓発を継続するとともに、講師による講演会を年間 1 回以上保護者向けに行う。 指標 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 74.3%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立大開小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.2%以上にする。 ◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上 ○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 89.5%以上にする。 ◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○学習に応じて、ペア学習やグループ学習を計画的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることができるようにする。 ○授業後のふりかえりの視点を校内で統一し、学んだことや友だちの意見から気付いたことを共有できるようにする。 指標 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.2%以上にする。	
取組内容② 【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ○年に 1 回以上、「運動だいすき週間」を設定し、「がんばりカード」を取り入れ、進んで体を動かすことができるようにする。 ○年に 1 回以上、ペア学年交流を実施する。また、運動委員会で遊びの紹介動画を作成し、体を動かすきっかけづくりを行う。 指標 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 89.5%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

大阪市立大開小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。 ◆ 基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進 ○教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 80 時間以上実施する教員をゼロにする。 ◆ 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり ○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 18%以下にする。 ◆ 基本的な方向 8 生涯学習の支援	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 「classroom」「ロイロノート」「canva」「kahoot!」「ブラウザの検索機能」などのアプリを活用し、授業における学習者用端末の活用機会を充実させる。 指標 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 71%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 会議時間の短縮、学校行事や会議の精選等を行い、時間外勤務時間を短縮する。 指標 教員の働き方改革に関する目標を、「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、時間外勤務時間について、月 80 時間以上実施する教員をゼロにする。	
取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 読書週間を設定し、期間中にお話会やお勧めの本の紹介を行う。また、読書貯金箱を活用し読書量を見える化することで、児童にとって達成感を感じやすい取り組みを継続する。	

指標 小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を18%以下にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	